

女誠  
繪入

女實徳教

女帯 上







一海は是のまららるる宝

此海は河の別名なり

一背海は是の力代の本

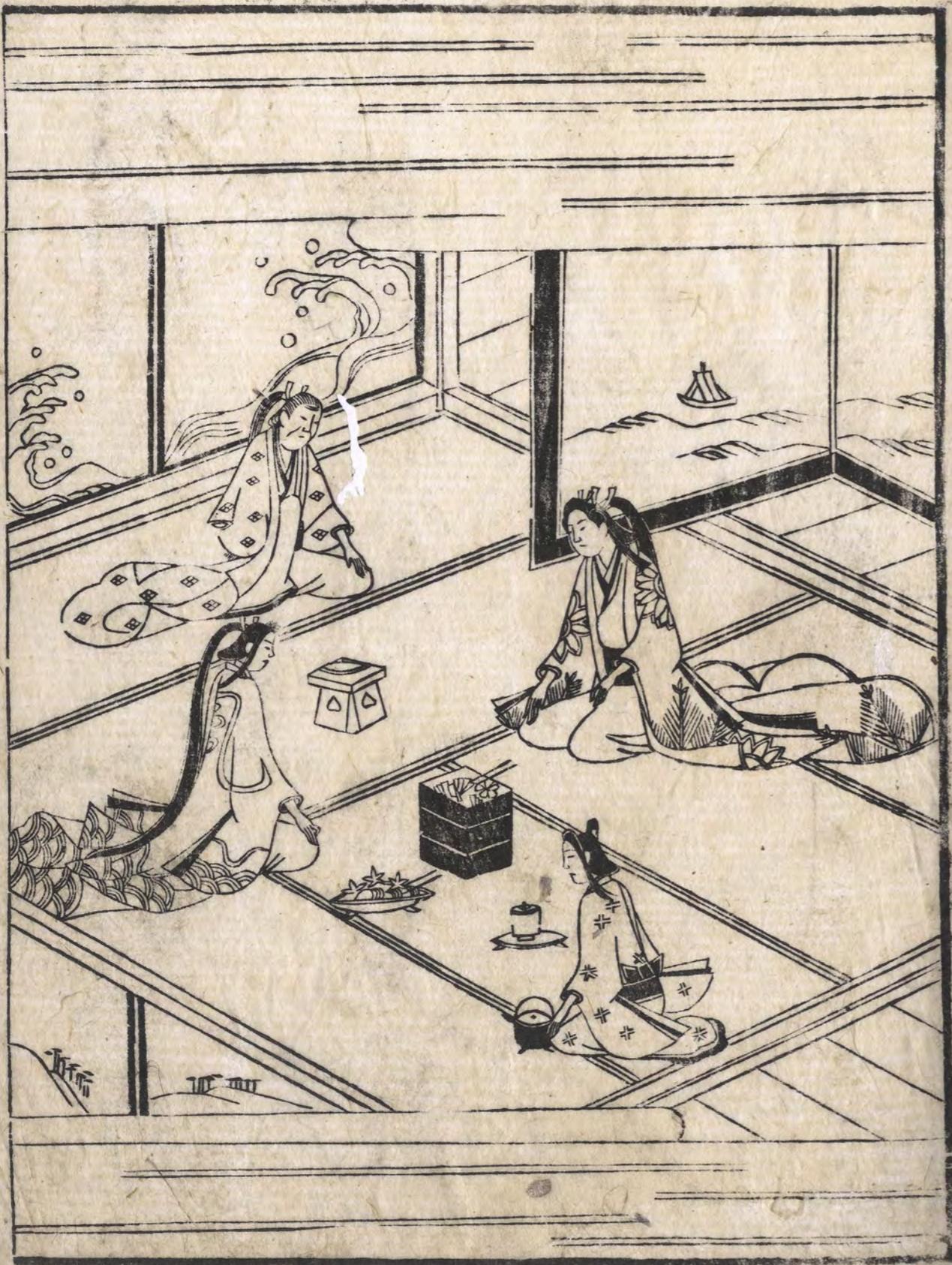
余終る河の總の海

一山成はるる義なり

長るは河の南類なり

一勅字はるる女なり

女は河の南類なり



一眉同まゆくくらら八は舞ま子このの  
 貞女まこと式しき衣いののくくははららるる  
 一歩いっ入いりり金かねととははじじりり茶ちや  
 人の心ひとのこころ成なりりたたららぬぬ



一 姿すがたのま見みしるから也なり

老おきなしますしおの六む年ねんにて養やしやうふ

一 幼こ時ときももおもろろしるももおもろろしる也なり

ここししけけくく物もの大おほししるる

一 故こ物ものおもろろしるももおもろろしる也なり

わわのの針はりはは多おほししるる時ときななれ

一 暇ひまととののぞぞいいくく續つづふふとと学まなぶぶ

亂らんとと母ははびびてて續つづ線せんとと也なり

一姑いもぢよあひて書かく字じををか

家いへと持もち

一丈いちぢやうよ浪なみををとらとらら尤なほ當あた味あじを

ももととららににははららなな

一姑いもぢよ成なりてていいよああとと港みなと

嫁よめハ四よ男おとこ姑いもぢととららなな人ひと

一萬いちまんり家いへよととららいいよよとと

たたららたたららななららなならら

一貪まごう一いた一人ひと乃なり毒どくととなる

清潔いさぎよはは女に當あじじ一い

一父母ちちいははの天地あめつち乃なり一い

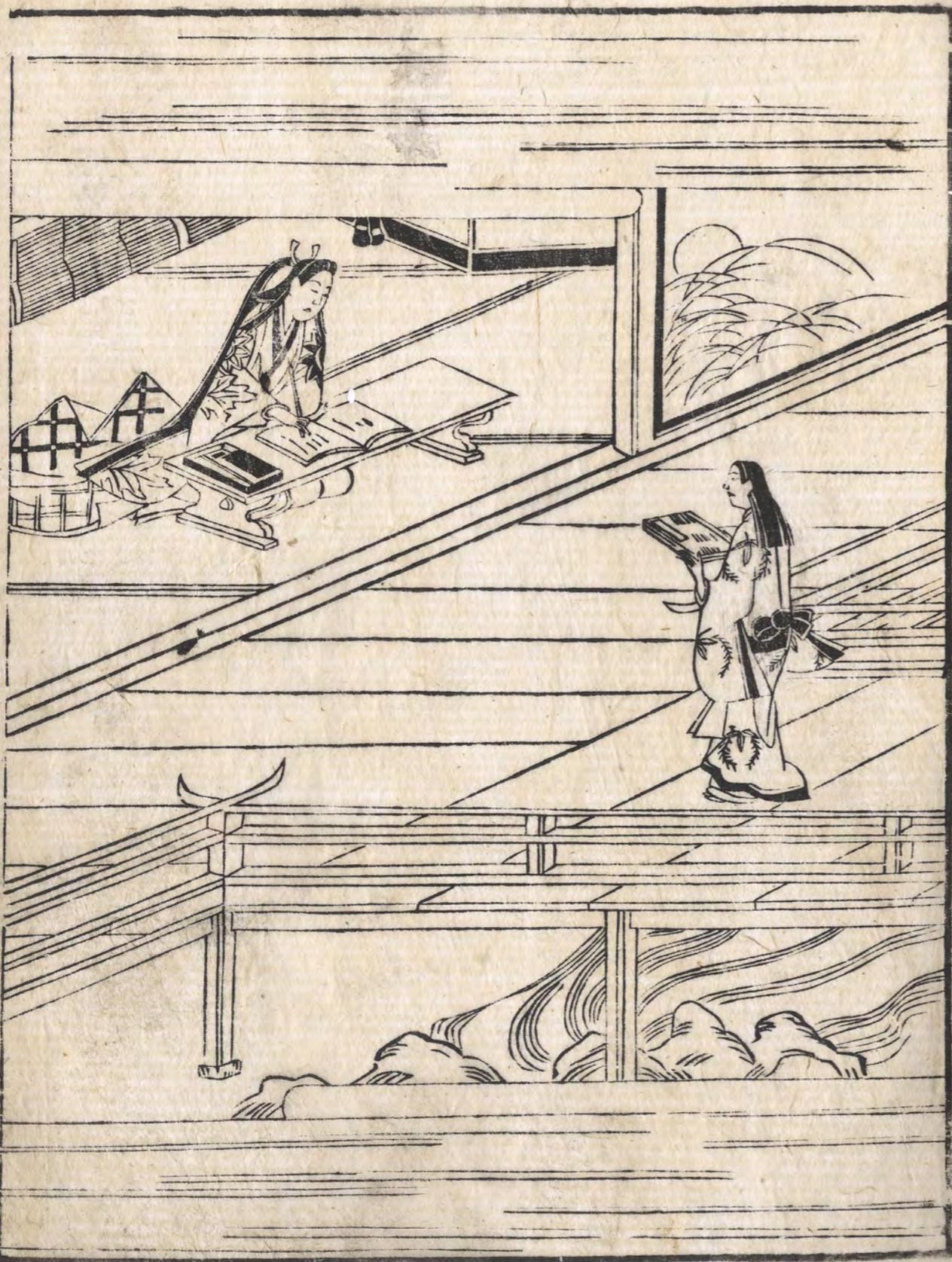
男おとこ娘むすめの月つき日ひ乃なり一い

一丈さかの草くさも人ひとの老おきな乃なり一い

女にの行ゆき一い後あと者ものの如ごとく

一父母ちちいははの朝あさ夕ゆふ乃なり孝うやまつとと行ゆ

男おとこ娘むすめの恭まごころはは子この心こころ



一丈婦争ひ嘆のあら

理よむけてよらと  
 河入

一彼  
 一六  
 一七

才娘よ毛のふゆ

一女として孝を教ふる

若木乃情ありて孝

一嫁として孝の心を

多敷く示す



二三式後と守りは

らんそ又の隙とねん

一守身と報する家さん

唯の八若く母となん

一女の地獄乃使たを

よく仏の種子とる

一面の善言後よ似る茶

ん一夜母れと祝ふ

一姑あはれとるも母ははのこころ

継子ついでこと養やしな下くだらひ子こはなからいないな

一丈いちじょうとさ菴あんのつつとままららいい

丈じょう又また書かききとと直ち直ち愍めいへへ

一己いちぎ丈じょうのお親おやととるるもも

丈じょう又また己おのれがが親おやととるるもも

一我わが母ははととるるもも母ははのこころ

らら丈じょうのお家いへととるるもも

一代之書は邦多の如く

ふらふらと嗜す

一代之文は邦多の如く

ふらふらと嗜す

一語の如く見えては速に進

ぬきぬきと見えては我身は

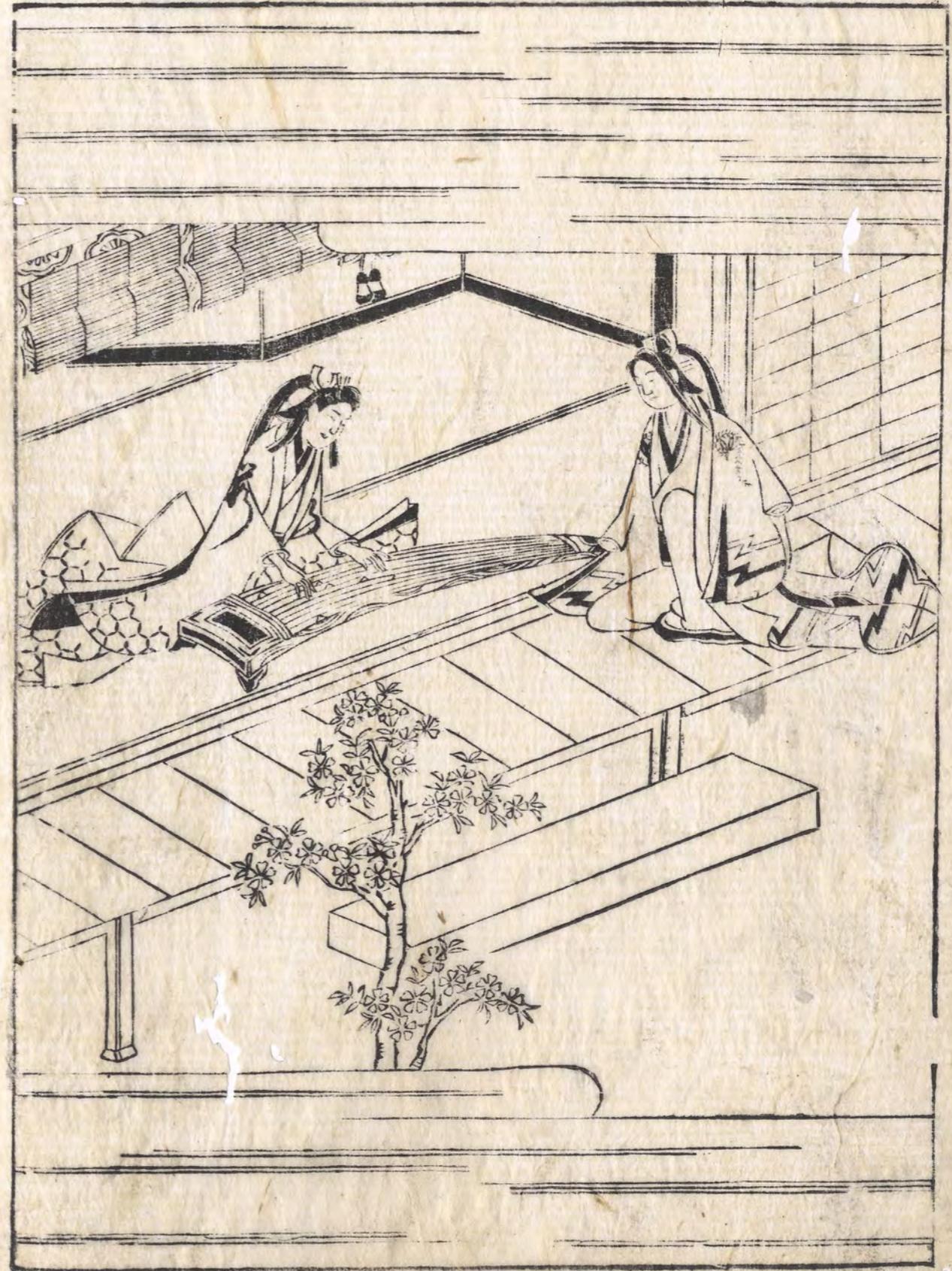
一信の如く人の福を為す

存る未だ魁たる如く



一 杯 <sup>ちやくぱい</sup> 少 <sup>すく</sup> 人 <sup>ひと</sup> の 福 <sup>ふく</sup>   
 身 <sup>み</sup> の 親 <sup>おや</sup> 乃 <sup>の</sup> まる <sup>まる</sup> ね <sup>ね</sup>   
 一 萬 <sup>いちまん</sup> と <sup>と</sup> 子 <sup>こ</sup> を <sup>を</sup> 貧 <sup>びん</sup> 乏 <sup>ぼく</sup>   
 綾 <sup>あや</sup> 一 <sup>いち</sup> 人 <sup>ひと</sup> の 福 <sup>ふく</sup>   
 一 萬 <sup>いちまん</sup> と <sup>と</sup> 子 <sup>こ</sup> を <sup>を</sup> 貧 <sup>びん</sup> 乏 <sup>ぼく</sup>

一或ハ始ハ業ハ終ハ人ハ  
 一或ハ心ハ以テ業ハ後ハ終  
 一或ハ指ハ初テ益ハ終ハ  
 績綜繼針乃業



一又字是して助すけとあるハ

讀書系糸竹表及語の

一但た不ふ行ゆ法は以もて法は行ゆ

又身みは毎ま日に行ゆあり

一有あ成り一い家い業ぎと律りは

にあるは此この時に親は法に

一嫁よめくは子こは法に

老おては子こは法にあるは

一是<sup>ハ</sup>女<sup>メ</sup>杖<sup>ヅ</sup>之<sup>ノ</sup>後<sup>ノ</sup>行<sup>キ</sup>り

身<sup>ミ</sup>終<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>申<sup>ス</sup>上<sup>ニ</sup>馬<sup>ウマ</sup>路<sup>ヂ</sup>

夏<sup>ナツ</sup>交<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

女<sup>メ</sup>実<sup>ニ</sup>流<sup>ル</sup>黄<sup>ワウ</sup>奴<sup>ヌ</sup>流<sup>ル</sup>



江戸樂舎用

女誡 繪入

女帝子教

下 卷

東中井

女孝子教



一丈<sup>それ</sup>上<sup>へ</sup>行<sup>く</sup>この<sup>か</sup>山<sup>ま</sup>前<sup>まへ</sup>へ

参<sup>まゐ</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>ば

一<sup>い</sup>貴<sup>き</sup>なる<sup>なり</sup>人<sup>ひと</sup>よ<sup>よ</sup>今<sup>いま</sup>名<sup>な</sup>今<sup>いま</sup>と<sup>と</sup>過<sup>と</sup>

伝<sup>つた</sup>へ<sup>へ</sup>る<sup>る</sup>教<sup>きょう</sup>て<sup>て</sup>ら<sup>ら</sup>け<sup>け</sup>よ

一、こてはたはめ志をくみり  
魚い

我われは外まとくり  
見み

一、この法はつはるる  
巻まき入れ

宣のたまふの法はつはるる  
丸まる

三、かの宝たまのふ  
友とも礼らいとす

神かみ明あきとび  
二ふた度たび神かみとす

一、この陵ふとるる  
時ときは止とどま

社やしろたとるる  
時ときは止とどま

一宮寺みやうじより一巻の書あり

此の書は一宮寺の書なり

一宮寺みやうじの書と云ふ

此の書は一宮寺の書なり

一宮寺みやうじの書と云ふ

此の書は一宮寺の書なり

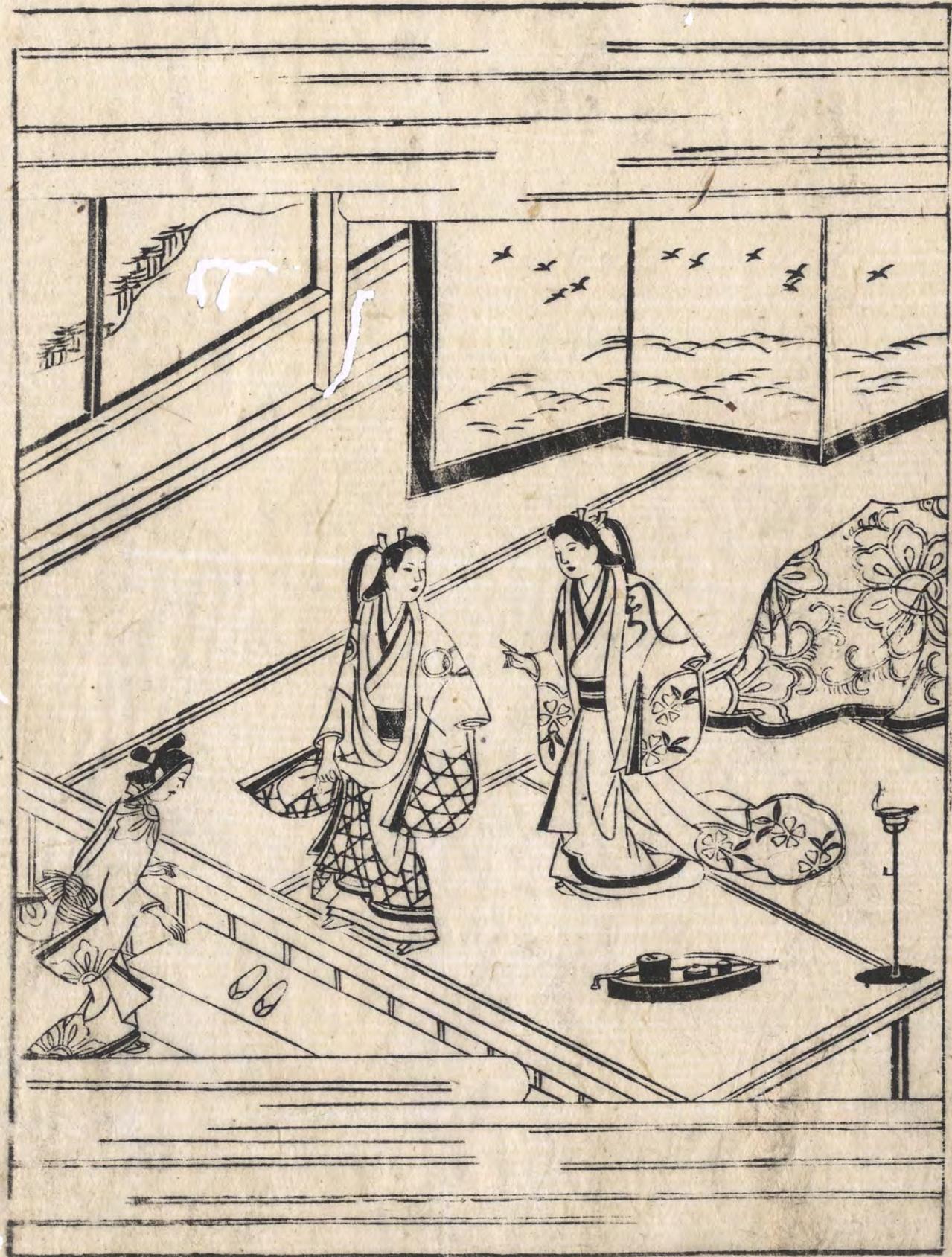
一宮寺みやうじの書と云ふ

男おとこ姑めかけの書



一家に  
 礼義を  
 父母の  
 名を  
 一の  
 行て  
 代書と  
 復との  
 早ゆ  
 此

一何よゆれても女をよこ  
 一何お母さ女不少  
 一何鳥言のなれ  
 一何女の身く公  
 一何



一倚より女にハ酒をとこりて

世う世れ女に家をと敬おそむ

一いつて女にあらはる女にあらはる

いい死しもく貞ち女に及らずす

一死し女に家をと治おさむ

とと女にハ勅し令を受けて

一詞し相あらはり所ハ出でる身

定さまりて後ハ後

一 貞 まこと 任 まか 事 こと 少 すく 事 こと 行 い 事 こと 毎 まい

家 いへ 業 わざ 乃 の 勅 つとめ 悔 くは 事 こと 毎 まい

一 男 おとこ 乃 の 淫 よこしま 乃 の 治 ち 事 こと 悉 しつじゆ 事 こと 毎 まい

精 せい 乃 の 明 あきら 事 こと 毎 まい

一 女 おんな 乃 の 後 あと 事 こと 毎 まい

大 おほ 障 さや 乃 の 飛 と 事 こと 毎 まい

一 乃 の 子 こ 乃 の 時 とき 乃 の 事 こと 毎 まい

膚 かわ 乃 の 事 こと 毎 まい

一脱とくつて坎くわんとよむといく笑わらと

版ばん立たちの女にも甚し怒どは

一武ぶとくひ言い葉はとすも

世よの世よ世よ世よと古ふると今いまと

一白はく陸りく人にんとわめて名なと

離り陸りく人にんと傍そばへ梅うめ

一禍わざはひと福ふくよは行ゆき

唯ただ人のひとぬくあはれ

一天てんの笑わらはもぬぬるるるる

自みづかれ笑わらは道みちづづ

一ひとれ言ことと行ゆかかよよ

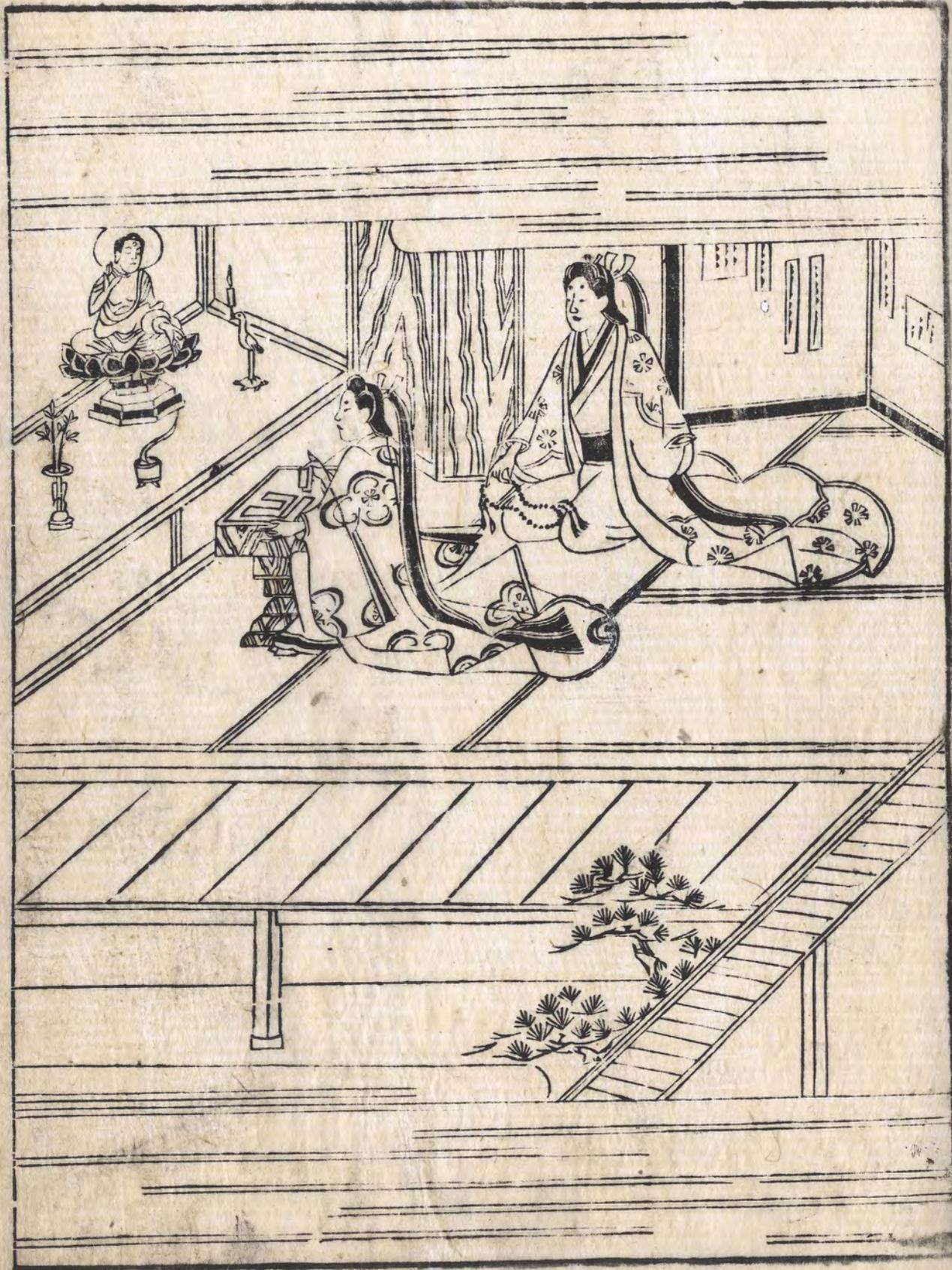
快たくくままの解とめめ

一ひと又また思おもはるる所ところ

口くちのの行ゆかかもも

一ひと人ひとの強つよの法はと行ゆかか

ままに陽ひれれ報ひるる



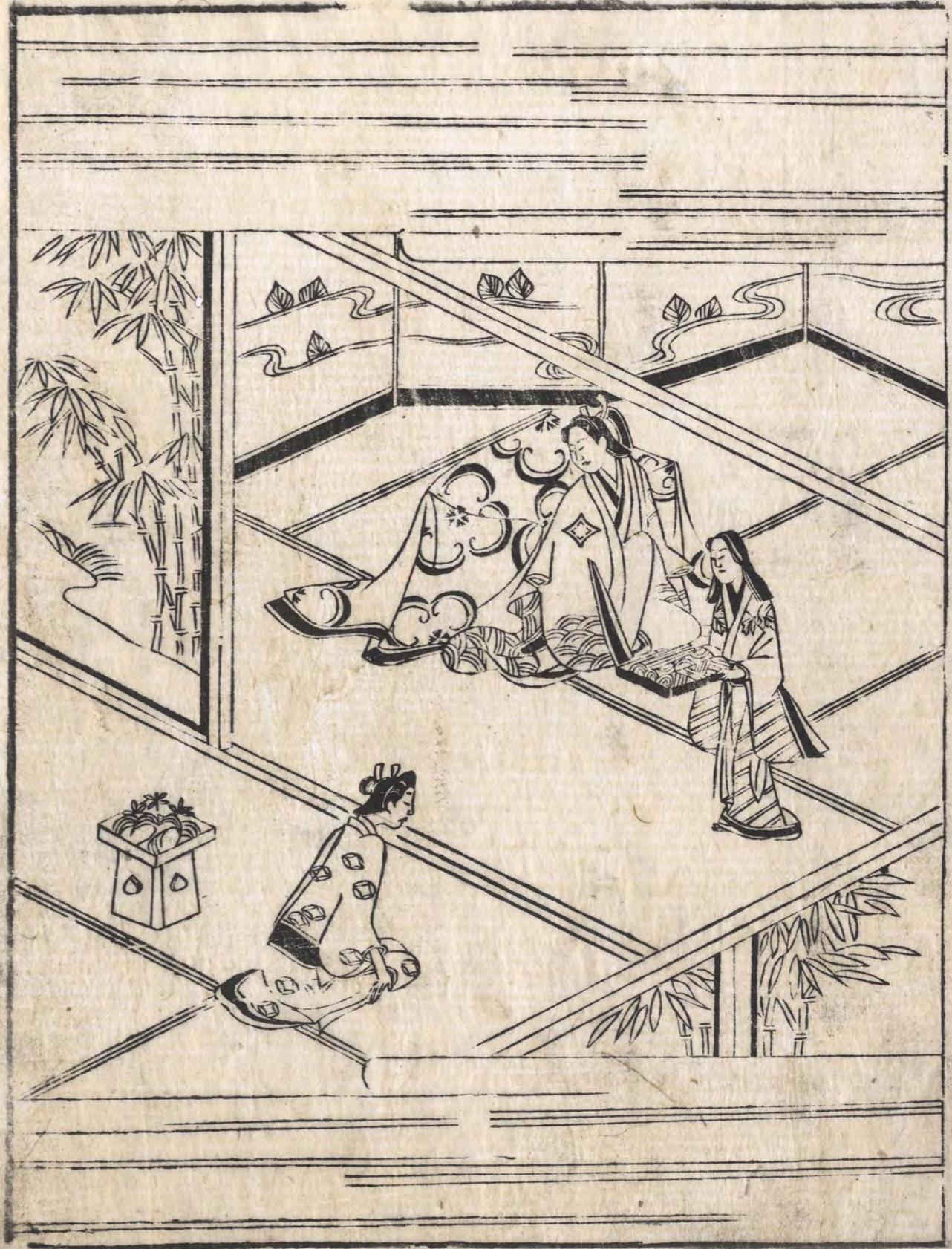
一いん信いんあり人ひと若わか門かどへは  
 女に内うちにこ書かきかるる事ことは  
 一いん吏しにして外そとへははななららず  
 又またのこと書かきかるる事ことは

一巻 娘 ちん 人の ぬき

さい ころ ぬき 月 なが ぬき

ふの ぬき ぬき 西 ぬき

水 ぬき ぬき ぬき





一音ひとね人の声こゑと答こたへと語かたご

悪あく人の形かたちと鏡かがみと鏡かがみ

一貴ひとたか人の書かきと形かたち

婿むことともとものままららるるるる

一ひと人ひとののままららるるるる

よよううぬぬ人ひとののままららるるるる

一ひと家かののままららるるるる

夫おとこののままららるるるる

一男とこよし産うてますこのこのこ

姑とこよしのこのこのこのこのこ

一親おん類るいよしのこのこのこのこのこ

毛あひ紋もんのこのこのこのこのこ

一女ひと三さん界かいよしのこのこのこ

夫とこのこのこのこのこのこ

一魚いさなよしのこのこのこのこのこ

女めよしのこのこのこのこのこ

一爰こゝと用もちて天あまと竊ひそかに

針はりと用もちて地ちと竊ひそかに

一祿ろくの無な人ひとと壽じゆと後ご

若わくじらに花はなと一ひと人ひとを

一師し返かへ牙は子こと戒かいひらる

少すくじよ花はなと木きと志しと

一ひと生なまぬままにま志しわらぬ

智ち勤きんてて心こゝろととははししめ

一貴くわいの女に共に花はなも多おほし

綾あやの女に共におおるる正ただ

一福ふくの女に共に貧ひん乏ぼう多おほし

貧ひん乏ぼうの女に共におおるる正ただ

一貧ひんの女に共に楽らく多おほし

多おほし人ひとは海うみの舟ふね

一物ものの女に共におおるる正ただ

家いえの女に共におおるる正ただ



一和わがら女にとるさらんとたた

仇あと生なて乃のききるる

一いんん何なせせくく頑くままんん

我わ等ら猫ねのの人ひとはは路ぢろろがが



一 心とほしきて和らるる

一 綱子の人よあつらひし

一 吾人の路はあつらひ

一 麻中乃蓬のあつらひ

一 西人のまじりて曲る

一 敷の中はいざしのあつらひ

一 親のあつらひ姑の付てし

一 うまはしむく織針のあつらひ

一生しぜんついでついで悪也あくとらとらふふ

智ちついでついで自利じりと信しん

一ひと口くち目めよよ一ひと針はりおお人ひと

三百ひゃく六十じゅう針はり

一ひと口くち目めよよ一ひと針はりおお人ひと

一ひと端はた仕し立たれれ膚くとと信しん

一ひと針はり文ぶん師しとと味あじよよ信しん

いい人ひとやや弟あにおお人ひとやや

一 趙孝婦の姑の事よ

子と養育て、棺と調ふ

一 系伯の母崔氏を

子に乃九経と教ふ

一 胡の早起て餐多り

男姑よつよみん

一 夕よよく寝て

心乃可抄人の事

一雨常と花まらよすらハ

酔梅く女心共

一義理たつ礼と背ハ

万代高敷よ乞

一女代酒。酔も刃落

食よあはわらもあ

一ム成信とれ眠と生

身安とれ奢者と好

一 恭公の后伯姫 尊

節義とちりて 燒失

一 鄭督の行義と乱

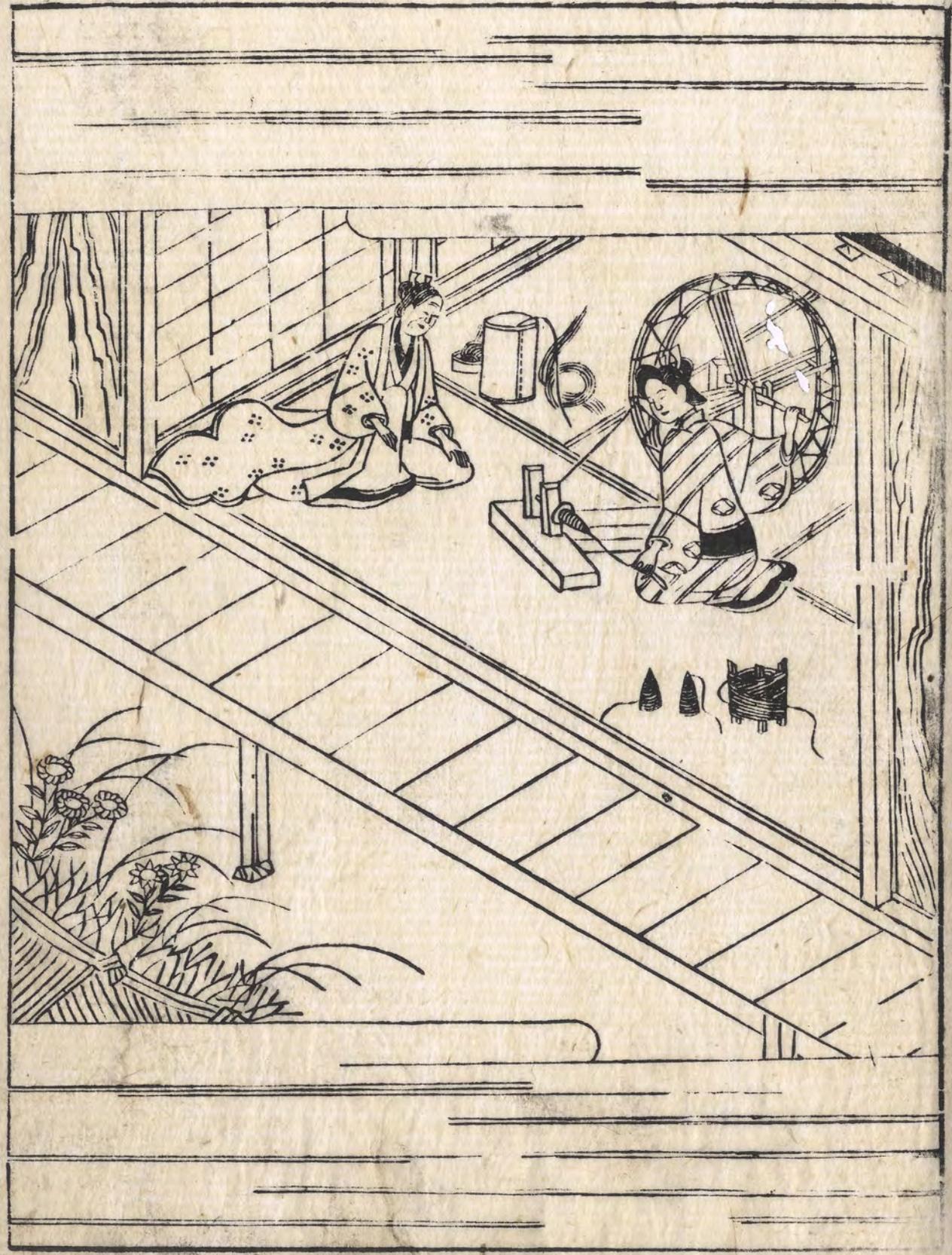
終よ夫人位よふの

一 國氏の女孝志よ

姑のあ眼と祈り

一 張氏が書あるを

食く宮て姑と書



一顧<sup>ひと</sup> 渚<sup>しづ</sup> 邊<sup>へ</sup> 妻<sup>つま</sup> の 娘<sup>むすめ</sup> は 孝<sup>こ</sup> 行<sup>ぎょう</sup>  
 包<sup>い</sup> 雷<sup>らい</sup> 公<sup>こう</sup> の 難<sup>なん</sup> と の ね  
 三<sup>さん</sup> 行<sup>ぎょう</sup> の 婦<sup>ふ</sup> 人<sup>にん</sup> 各<sup>おの</sup> 各<sup>おの</sup> 皆<sup>みな</sup>  
 昼<sup>ひる</sup> 夜<sup>よ</sup> に 心<sup>こころ</sup> 成<sup>なり</sup> け ぬ

一義と守り孝と流る

名と後代よからあまり

一緋綿と今昔とむね

忠孝れ志とまらるる



又物と継糸とははじけた

ふり節義とちりや

一才ある人の續くれば

厚んぞぬる人よあつ

一息たつた人の貴くれば

續くめよるもあつ

一文の無く須弥山は

母は海は巨る海は

一因いんとててををてて身みととままるるるる

木きはは多たくのの枝えとと枯くららまま

一徳とくととわわららぬぬりりてて徳とくととああららすす

野の乃の麻まのの草くさとと換かへへすす

一有ありり女に女に二親に親に為なるる偽いつはりのの徳とく

手て箱ばよよ方かたととななるるてて布ぬい施せ

一重しららぬぬ貧ひん女に女に父ちち母はははは靈たま系けい

只ただ一ひとつつのの衣えはは弁べん流りゅうてて仏ぶつ供くわん

一南なん鎮ちん集しゅう策さく女にょ父ちち女にょ依よと慕ぼ

厄やくとと奴にょとと孝こう書しよとと依よとと慕ぼ

一徽き妙めう八はちをを流りゅうのの父ちちとと慕ぼとと

白はく拍ぱく子しとと成なりてて行い情じやうとと款くわん

一孝こうのの父ちち八はち依よ林りんとと憐れんとと

彩さいののとと満まんとと子しとと款くわん

一い生せい免めんのの命めい八はち常じやうとと款くわん

早そう善ぜん提だいとと求もととと款くわん

一 敬が恒まの力ちから、淨きよくも

すまやうに淨きよくも

一 敬がつまき、恒ま其その界かい也なり

會あひのつらむは苦くるむ

一 敬がつまき、恒ま其その界かい也なり

生なる者もの死しは

一 念ごんひらげり

朝あまの生なれ

一身このわがが様さまのたりてし

目めはおつと結むすぶまは

一い後ご綿わたのよとゆひと

全ま後ご世よのまはらはらはら

一金い白しろ銀ぎんのまはらはら

只ただいはせらりり宝たからあり

一い騎きとまさりめがと飾り

文ふはら佛ぶつ及およびし助すけはらはら



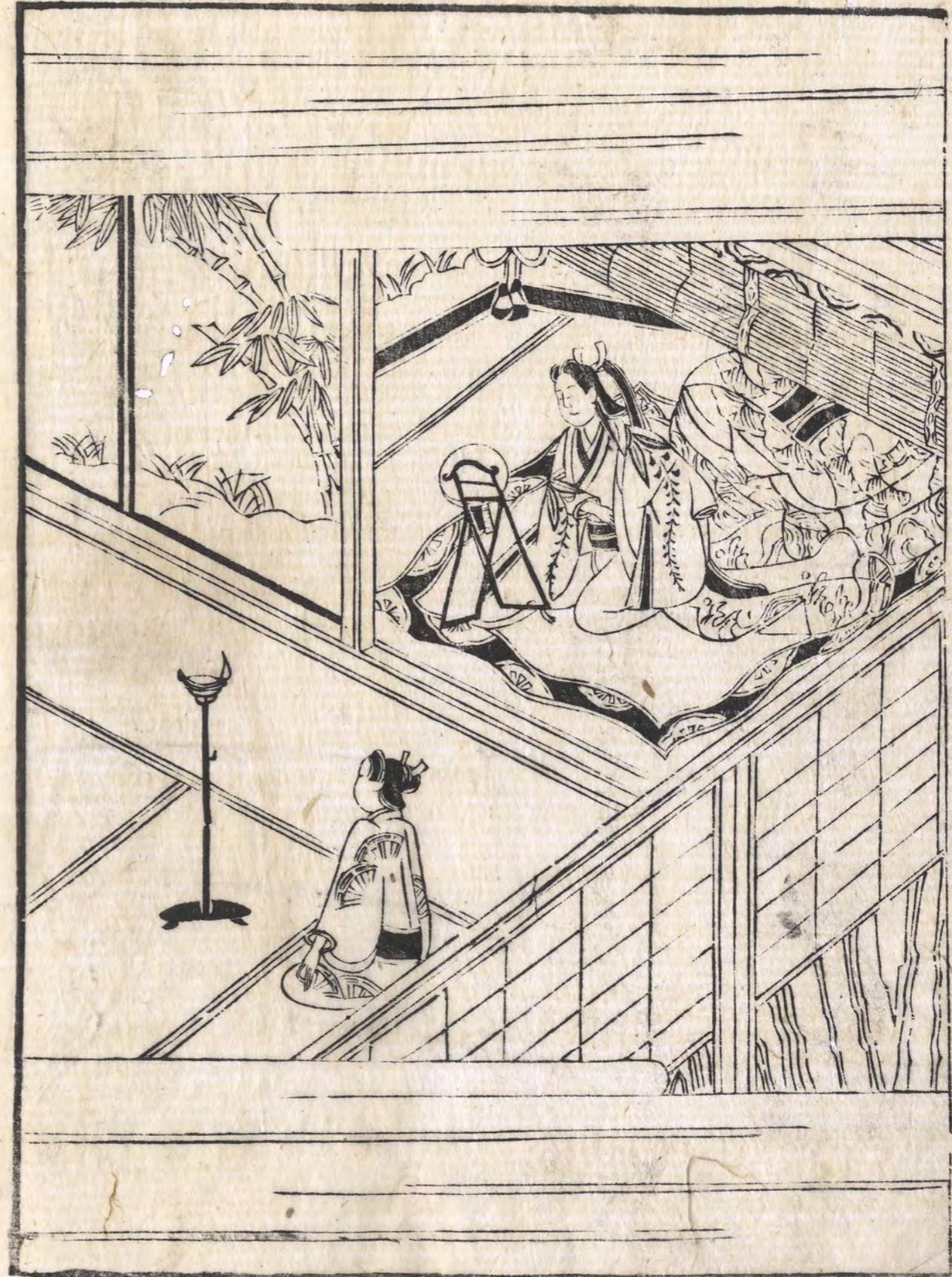
一 庭 いと ろ ん の 窓 を よ め  
 一 松 し の 竹 の 頂 を よ め  
 一 露 の 今 消 る は 経 り  
 一 現 世 は 楽 し の 世

一 鴛鴦の恋 うぐいすのこひ

あつらひのこゝろ あつらひのこゝろ

一 女談の七章 おんなだん

女 おんな



一卑弱ひじやくとて子こ六我むつが身みと備び也や

心こころこら和わつとまると云い

一丈婦いちじゆうぶとて子こ六天むつてん地ち部ぶ

其その後ご乃のちたたつとつと云い

一敬慎けいしんとて子こ六悔むつかい乃のち

悔くわいとて慎しんとて子こ也や

一佛ぶつ乃のちとて子こ六むつ云い

心こころ此こゝとて標ひょうとて云い



一 飢うろろのよの食くと施して

新あたらの善ぜん提だい乃のぬぬ

一 食くまのよの室むろと惱なご

寶たからの善ぜん提だい陳ちんたり

一 尺せきの地ぢ家かの生なまれく

施しとまま力ちからななんんが

一 他たの施しととみみ方かたなな

陽やう喜ぎの念ねんと生なまれく

一 心よつたれそて或るりよ施

功徳大なる由の海のもの

一 身の内おとく余ぬに施

能とゆらりの花子

一 水と手宛て廟とまる

よやく佛に心よ

一 花と梅く仏と借す

本よ連れ其基よの

一念十念ひとしじふのちりくちり

轉輪王てんりんの位ゐも勝かちれ

一妙法華經みょうぼうの法はう無む

三千界さんぜん乃なり宝たから也なり勝かちり

一正ただの孝うやまつ養やしなれば少すくく

中なかにの夫つまようつまままりまり

一ひと下したの遍あまの毛け教をとらん

一ひと身みの負おつまはさるなり



一、おのり方、人、た、る、び、ん、が、あ、る

女に誠まこと童子こども教しとと記きと

一、おのり方、人、た、る、び、ん、が、あ、る

女に誠まこと童子こども教しとと記きと

女に誠まこと童子こども教しとと記きと

元禄八乙亥亥歲歳生生中中旬旬

辰初辰氏氏女女津津宗宗書書書書是是

文文基基屋屋治治良良普普清清院院板板

江戸樂舎用

